



ぐんま集排だより



奈良地区処理施設全景

処理施設を訪ねて

沼田市奈良地区農業集落排水組合長
沼田市農業集落排水協議会代表

芝崎 完司

奈良地区について教えてください。

奈良地区は、沼田市北部に位置し、北側を利根郡川場村と接して、南側を一級河川笈知川が流れて南北に細長い山間地帯であり、奈良中部、南部、北部(大倉)と行政地区が1つで、地縁性をもつ区域です。奈良地区を含む旧池田村は、迦葉山竜華院、玉原ダム、二十一世紀の森等があり、産業では観光農業のりんご、ぶどう、高原野菜を主体とした地域です。この地域は、生活上に伴い生活雑排水が農業用水路に流入し、水質汚濁が進行して水質保全、生活環境改善がせまられていました。

事業への取り組みについて教えてください。

奈良地区は農業集落排水事業で、計画戸数108戸、計画人口460人、日最大汚水量138トン、平成6年度から平成10年度事業費七億四千万円で整備致しました。処理施設の外觀は環境にやさしく、自然環境に合ったものとして瓦屋根と外壁に木材を使用しました。

また、負担金は、戸当たり10万円とし、供用開始後から5年間で20回払いとしました。

今後の課題等についてお聞かせください。

沼田市の農集排水事業の計画は17地区あり、奈良地区は市内一番目に完成し、平成10年4月に供用開始して以来現在の水洗化率は30パーセント、今年4月から供用開始となった、秋塚地区は、21パーセントです。

また、現在上久屋地区の整備を平成16年完成を目標に事業を進めています。今後市内すべての区域に下水道整備を目標に、公共下水道、農集排及び合併浄化槽で汚水処理の整備を推進し生活環境の改善の取り組みを進めます。



秋塚地区処理施設全景

農業集落 はい水しよ理し設を 見学して

石井小四年 樽沢 淳

7月15日木曜日、農業集落はい水しよ理し設に行きました。

まず、地下室に行きました。大きなはこみたいのが、10こくらいありました。そのはこみたいの中をよくれた水が流れていました。ティッシュやかみのけ、なまこみなどがたくさんつまっていました。すぐきたなかつたです。よくれた水は、時間をかけてこのしせつできれいにしているそうです。ほくは、「みんなが使った水をきれいにするには、すごい苦労をかけてたいへんだなあ。」と思いました。天ぶらの油やガソリン、シンナー、ティッシュ、かみの毛などは、流してはだめだと係の人が話していました。大きなごみをとつてもまだ細かいごみが残っています。細かいごみは、びせいぶつが食べるそうです。それでよくれた水がきれいになります。びせいぶつは見えないくらい小さいそうです。びせいぶつの色は黒ですが、下水の中で生まれ、下水の中で死ぬそうです。下水の中は6メートルも深く、きれいになった水が見えました。水を使ったら、そのままにしておけないそうです。水をそのままにしておくと、水のそばを通るだけくさいそうです。ほくは、水を

大切にしたいと思います。流しに流すのは、水だけがよいそうです。川や海、湖には、ごみをすてないようにしたいです。水はやさしく、ていねいに使いたいです。ほくは、下水の意味は知りませんでした。ほくは、下水の勉強をしてよかったです。水をきれいにするには、みんなのきよりよくが必要です。お金もたくさん必要だそうです。だれがこのよくなすこい機械を作ったのでしょうか。ほくは、不思議に思いました。ほくは、大人になつたら水をきれいにする人になりたいです。ほくは、日本の川をほかの国より、一番きれいにしたいです。川や魚がよるこぶような川にしたいです。川や海や湖は、みんなが使うから、みんなが川のルールを守ればいいと思います。ほくは、きれいな川は、いやです。ほくは、川などにごみをすてたことがあるから、こんどから気をつけたいです。みんなが使う川だから、みんなできれいにしたいです。そして、みんながきれいな川で遊んだりできるよじりたいと思います。

水を守る

石井小四年 小淵 達彦

7月15日ほく達は、学校の近くにある村の農業しゆつらくはい水しせつを見学に行きました。そこ

農業集落排水作文コンクール参加作品紹介

全国農業集落排水事業推進協議会の作文コンクール応募に、処理施設見学会を実施した富士見村石井小学校4年生の41作品のうち、2作品を本会からの推薦作品としましたので紹介いたします。

をとる機械があつて、紙みたいなものがみえました。パイプから、すずしい風が来ていました。ほくは、そこを見てなんでタンクみたいのたためているのかなあと思いました。

次に、1階の方の部屋に行きました。そこにも、ごみをとる機械の小さいやつがありました。そこは、野さいくすのよなもつと小さいごみをとる機械でした。上から水がたれてきました。タンクに水をためておくのは、きたない水を、少しづつきれいにしていくためだと分かりました。外に出ました。コンクリートでかこまれた大きなふたがあつて、そのふたを開けてくれました。中をそつとのそいたら、下の方に水が見えました。そしたら、村の下水道課のおじさんが、「水が6メートルも、はいつているんだよ。」と、言っていました。

それに、「大人も落ちたら死んじゃうよ。」と教えてくれました。ごみを食べてくれるびせいぶつがいるそうです。そこでは、びせいぶつをかっていいるそうです。びせいぶつは、けんびきよつで見



ないと、見えないそうです。ほくは、なんでびせいぶつがごみを食べてくれるのか不思議でした。そして、すなみたいな死んでいるものを見ました。それは、水の中のごみを食べてくれたびせいぶつのはがいたそうです。はじめは、くさくさなかつたけど、急にくさくなくなりました。ほくは、このしせつを見学して、水は1回使つてすてるんじやなくて、またさいりよつてできることを知つておどろきました。また、水の大切さを知りました。「このしせつがなかつたら、川がこつて、魚が住めないよ。」と村の下水道課のおじさんが教えてくれました。みんなが使つた、せんざいやよくれた水は、そのまま海に行くんじやなくて、一度このしせつをとつてきれいな水になるので、またその水が使えるのです。でもきれいな

水にするためには、たくさんのお金と時間がひつよじになります。ほくは水を、むだづかいしないで、くらしでいきたいです。地球を守り、ほく達の住んでいるこの富士見村を守るためにも、水を大切に使用していきたいです。

平成11年度 群馬県農業集落排水事業連絡協議会 新役員紹介



監事/中村 勇司
(太田市協議会代表)



監事/芝崎 完司
(沼田市協議会代表)



副会長/金井 郁治
(子持村協議会代表)



副会長/近藤 源吉
(富士見村協議会代表)



副会長/中村 昇
(高崎市協議会代表)



会長/石原 修治
(前橋市協議会代表)

平成11年6月の総会において新役員が選任されました。(任期2年)なお、副会長の中村昇氏(高崎市協議会代表)以外は再選されております。

利根村輪組地区
農業集落排水事業組合



組合長
吉野 忠男

私達の農業排水地区は、利根村南部標高四五〇mに二ヶ所六二〇mに二ヶ所と二行政区二ヶ所の処理場を持つ輪組地区です。当地区は昭和34年に全戸に水道施設が出来、昭和44年に第一次構造改善事業、62年から赤城西麓土地改良事業、平成7年度に今回の農業排水事業(利根村モデル地区)として実施しました。整備対象地区は2集落からなっておりますが何時も気持ちは一つ、役場の一度の説明会で組合が設立されて以後何回かの役員会、総会で公共升から宅地内集合升までを全額平均負担で予定通り平成11年3月供用開始になりました。文明と環境は反比例する点があると言われております。



はならないと思う。私達が幼い頃、川は豊かに清く魚達もたくさんいた。そ

必要不可欠になってきた。便利な生活が当たり前になった。てきた現在、その裏に隠された自然を浸食していく様を、私たちは忘れて

明るい未来に向かって

員村 小林 和枝

環境の良い山間地でも水道の普及、台所改善等により、生活排水等が側溝を流れる下水も次第に汚れが目立つ様になって来ましたが今回の農業排水事業により地区全域が悪臭も少くなりました。供用開始後3年以内に全戸の接続工事を予定しておりますが、すでに40%の家庭が通水しております。農業集落排水事業により快適な生活環境を送れる事が水源、水源地に住む私達の誇れる事業の一つであると思います。

尾合、岩室集落排水施設は平成8年度に完成し、はや3年以上が過ぎようとしている。下水道は、もはや私達には

の反面、時として台風や大雨で荒れ狂う時もあった。豊かさと苦しみは隣り合わせかもしれない。だから忘れてはならないと思う。自分たちが生活していく上で出来る限り自然に優しくなる様水の使い方、処理の方法を工夫していくべきではないだろうか。

水も無限のものではない。自然の潤いがあつてこそ生まれるものであり、私たちの生活を、心を満たしてくれる。だから出来る限り優しい気持ちで水を川に返してやりたい。それには各自が日常生活においてトイレの使い方、洗濯の仕方、台所等出来る限り自然破壊をくい止められる様、利用方法を考えてもらいたい。

人間には、自然ほど大切に強い存在はない。文明が発達し経済が発展しても、根源にあるのは自然が与えてくれる大地の力であり、人間を優しく包み生活に潤いを与えてくれていれるという事を忘れてはならない。複雑化していく社会だからこそ、心から下水道施設を有意義に大切に利用してもらいたいと思う。

- 発行者
群馬県農業集落排水事業連絡協議会
- 事務局
群馬県土地改良事業団体連合会
〒371-0837 前橋市箱田町350番地
TEL.027-251-4105
- 編集人
石原修治
- 印刷
(株)アルファ一企画

平成10年度 事業報告 (平成10年7月～平成11年3月)

- 平成10年
 - 8月 ・監事会及び監査
 - 9月 ・機関紙「ぐんま集排だより」(第3号)編集委員会
 - 10月 ・全国農業集落排水事業推進協議会(第8回通常総会)
 - 11月 ・現地研修会(茨城県美浦村、栃木県益子町)
- 平成11年
 - 1月 ・機関紙「ぐんま集排だより」(第3号)35,000部発行



夢ふくらまそう・未来はくくもう
ぐんまの農業農村整備

シンボルマークは平成11年4月16日に商標サービスマークとして正式に登録されました。

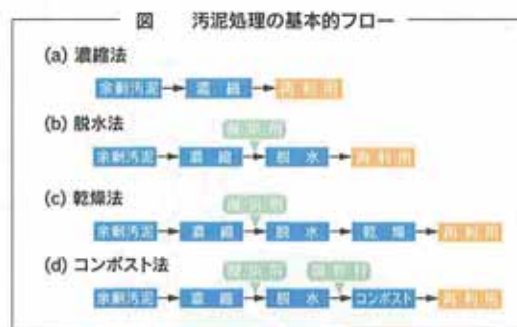
ぐんまの 汚泥処理の現状

農業集落排水施設は、現在までに54地区が設置され、また、設置中のものが40地区あります。「群馬県汚泥処理計画」では平成22年度までに整備率69%（県全体72%）を目指しており、今後とも地区数の伸びが期待されます。

このようなことから、汚水の処理工程から発生する汚泥の量も増加し、この汚泥の処分が管理上大きな課題になると思われます。

農業集落排水事業は、処理場の周辺に農地や緑地が多く存在するため汚泥資源の有効活用の観点から、緑農地利用を積極的に図ることが必要です。汚泥処理の方法には、図のような方法がありますが、地域の営農状況、緑農地の状況に適した処理方法を選択することが重要です。すでに幾つかの市町村においては、処理方法に適した処理技術（機種）を導入して農地還元を行っています。

- 富士見村は真空乾燥機で脱水乾燥し**乾燥汚泥**（特殊肥料）に
- 北橋村は汚泥を脱水後、農協が管理する**堆肥舎センター**へ搬入し牛糞と攪拌し**堆肥化**
- 中之条町は、脱水機を内蔵した乾燥機により濃縮・脱水・生物乾燥の処理を行い**乾燥汚泥**に
- 粕川村は、発生した汚泥は水分調整をせずに有機肥料供給センター（通称：液肥センター、好気的高温発酵処理）へ搬入し、一般し尿と混合発酵させ**液肥**にしています。



しかし、こうした農地還元を行っている地区はまだ4割に満たず、大半はし尿処理施設などの他施設に依存している状況です。

都市下水道についても、将来（平成22年度）、年間21万トンの汚泥量が予測されており、従来からのし尿処理施設での焼却及び埋め立て処分から、リサイクル利用への切り替えが課題になっています。

このような背景から県では、すべての下水汚泥を対象にして、平成10年度と11年度の2カ年で「群馬県汚泥処理計画」を策定し、処分計画の方向性を定めるとしています。

家庭での心がけ

農業集落排水処理施設は自然ときれいな水、快適な生活環境をつくるみんなの財産です。大切に使いましょう。

また、家庭でのちょっとした心がけで、きれいな川を守る手助けができます。

- ◆ 水洗トイレには溶ける紙を使用する
- ◆ 洗剤を利用するときは無リン洗剤を使う
- ◆ 台所の調理くず・てんぷら油等は流さないようにする
- ◆ 風呂場や洗面所の排水口に髪の毛、糸くず等を流さない



「生命の源は水」これはほとんどの人が知っていることです。

昔はきれいな小川でホタルが飛び交う姿を見たものですが、今ではいかがでしょうか。

21世紀が目前に迫っています。いつまでも水を大切にするため、各自が排水に十分気をつけ、集落排水施設を大切に使いつつ、子孫に美しい環境を残してあげたいものです。

群馬県農業技術課専門技術員 竹上千恵子